

## 西之島の火山活動解説資料（平成 27 年 4 月）

気象庁地震火山部  
火山監視・情報センター

海上保安庁等の観測によると、噴火による噴石等の堆積や溶岩の流出が継続し、新たな陸地の拡大が続いています。

西之島では、今後も新たに形成された陸地にある火口で噴火活動が継続すると考えられます。また、西之島周辺の海底で噴火が発生する可能性も引き続き考えられ、噴火による影響が海上まで及んだ場合、弾道を描いて飛散する大きな噴石<sup>1)</sup>や、水面を高速で広がるベースサージ<sup>2)</sup>等の影響が概ね 2 km の範囲に及ぶおそれがありますので、西之島の中心から概ね 4 km 以内では噴火に警戒してください。

平成 27 年 2 月 24 日に火口周辺警報(入山危険)及び火山現象に関する海上警報を切り替えました。その後、警報事項に変更はありません。

## 活動概況

< 4 月 22 日の状況(図 3) >

海上自衛隊が実施した上空からの観測によると、第 7 火口では活発な噴火が継続していました。噴煙は灰褐色で、高度約 300m で北に流れていました。西之島周辺に変色水は観測されませんでした。

< 4 月 23 日の状況(図 4) >

第三管区海上保安本部が実施した上空からの観測によると、第 7 火口では活発な噴火が継続していました。噴煙は青白色から白色で、北北東に流れていました。北東側の海岸の一箇所では白煙が確認されました。西之島周辺に変色水は観測されませんでした。

< 4 月 27 日の状況(図 5) >

海上保安庁が実施した上空からの観測によると、第 7 火口では断続的な噴火を継続していました。噴煙は白色で、高度約 450m で南西に流れていました。火砕丘北東斜面に形成された 1ヶ所の溶岩流出口から溶岩が流出し、火砕丘北側に溶岩原を形成していました。溶岩原の北東端では溶岩トンネルを経由して 1 条の溶岩流が北東方向に流下し、海岸線に達していました。この海岸線の 4ヶ所で水蒸気が上がっていましたが、海岸線には顕著な変化は認められませんでした。溶岩原の南東側の先端部では、土煙が上がっていました。西之島及び新たな陸地には、津波を発生させる恐れのある、海岸線に平行して走る断層やクラックは認められませんでした。

変色水は、北側海岸線に薄い黄緑色で西之島北側で幅約 200~300m で分布しているのが確認されました。

- 1) 噴石について、その大きさによる風の影響の程度の違いによって到達範囲が大きく異なります。本文中「大きな噴石」とは「風の影響を受けず弾道を描いて飛散する大きな噴石」のことであり、「小さな噴石」とはそれより小さく「風に流れてふる小さな噴石」のことです。
- 2) 火山ガスと火山灰等の混合物が、水面や地表面を高速で横方向に広がり、地表の物を巻き込む現象で、人体や建物、船舶等に大きな被害を与える恐れがあり、とても危険です。

この火山活動解説資料は気象庁ホームページ (<http://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/volcano.htm>) でも閲覧することができます。次回の火山活動解説資料(平成 27 年 5 月分)は平成 27 年 6 月 8 日に発表する予定です。

この資料は気象庁のほか、国土地理院、海上保安庁、海上自衛隊及び国立研究開発法人産業技術総合研究所のデータを利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図 25000(行政界・海岸線)』を使用しています(承認番号:平 26 情使、第 578 号)。



図1 伊豆・小笠原諸島の活火山分布及び西之島の位置図

西之島は、東京の南方約 1000km、父島から西に約 130km に位置します。

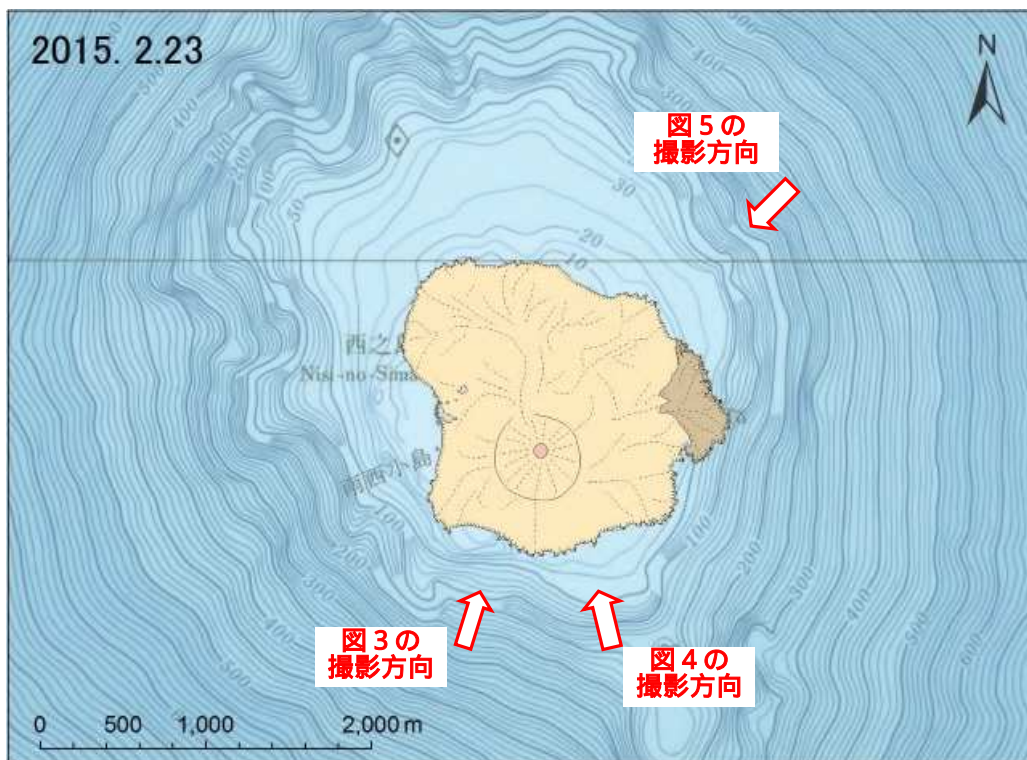


図2 西之島 主な撮影方向  
西之島地形図（海上保安庁作成）に撮影方向を追記。



図3 西之島 第7火口の状況（4月22日09時44分 南方向から撮影・海上自衛隊提供）



図4 西之島の状況（4月23日14時07分 南方向から撮影・第三管区海上保安本部提供）



図5 西之島の状況(4月27日11時10分 北東方向から撮影・海上保安庁提供)  
溶岩原の南東側の先端部では、土煙が上がっていました。溶岩原の北東端では溶岩トンネルを経由して1条の溶岩流が北東方向に流下し、海岸線に達していました。この海岸線の4ヶ所で水蒸気が上がっていました。